

CVS 利用の Tips

ソースツリー階層の一部をとりだす

CVSROOT/modules に追加すればよい

CVSROOT を直接いじるのは危険なので、CVSROOT を cvs で checkout して書き込む

```
% cvs checkout CVSROOT
```

modules にたとえば、大きなモジュール foo の下の bar を取り出したい場合には bar foo/bar と記述し commit すれば以降は

```
% cvs checkout bar
```

とできる

モジュールのリストを取得

追補編 に書いてあるのだけど

modules に設定していないモジュールのリストが欲しいときは

```
% mkdir temporarily-working-directory  
% cd temporarily-working-directory  
% mkdir CVS  
% echo . > CVS/Repository  
% cvs -d $CVSROOT update -r00 -d -p
```

でいいらしい

その他覚書

特定のバージョンのものを取り出したい

```
% cvs co -r release-1-2 -d hoge.release-1.2 hoge
```

これで、hoge の release-1-2 を hoge.release-1.2 以下に取り出すことができる

新しいタグを打ちたい場合

```
% cvs tag relase-1-3
```

ブランチを切りたい場合

```
% cvs tag -r release-1-3
```

参照をもつ場合

```
% cvs rtag -r release-1-3
```

編集して tag を切りたい場合

tag 打ってあるバージョンにはそのまま commit することはできません。

新しく tag をきりなおして、生成します。

たとえば、

```
% cvs tag -b release-1-13-5  
% cvs update -r release-1-13-5
```

tag を切りなおしたら、その tag で、update します。

これをしないと、sticky ~ というエラーがでるはずですが。

このあとは、いつもどおり、commit できます

```
% cvs commit
```

ほかのリビジョンのソースをマージしたいとき

たとえば、current で release-1-13-5 の config.xml での変更点をマージしたい場合、

```
% cvs update -j release-1-13-5 etc/config.xml
```

リンク

[バージョン管理システム CVS を使う](#)

[CVS のはなし](#)